

## (5) 企業によるまちづくり

平成30（2018）年、新百合ヶ丘地区の魅力を高め、地域の活性化を目指すことを目的として、企業体である「新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム」が設立された。「しんゆりフェスティバル・マルシェ」の開催や季刊誌の発行など、新百合ヶ丘のブランド力アップを図っている。こうした取り組みも、発展の大きな一助となっている。

### 3 これから

地下鉄3号線の延伸が決定し、ますますの発展が楽しみなまちであるが、少子高齢化が進む中、多様化するニーズや課題に対応しつつ、区の魅力向上させていく必要がある。その取り組みの一つとし

て、市が策定した「これからコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、市民と協働で令和6年度のソーシャルデザインセンター開設を目指し、持続可能な暮らしやすい地域づくりに取り組んでいく。

また、来年に控えている市制100周年・緑化フェアに向けて、麻生区の特徴の一つである豊かな環境を活かした事業展開をするなど、麻生区が掲げている「豊かな自然と芸術・文化が溶け合う活力あるまちづくり」をさらに推進していく。



しんゆりを明るく照らすイルミネーション

## コラム あなたは答えられる？ 区名の選定理由を一挙紹介！

7区の区名は答えられても、それぞれの名称がなぜ選ばれたのかは意外と知らないもの。各区の名称は区の誕生に合わせて一般公募され、区名選定委員会で決定されました。ここでは、当時の市政だよりから、区名選定委員会で示された選定理由を紹介します。

### 川崎区

応募多数である中央区は、選定の基準（方位）で難点があり、その他の区名については、新区域を包括するものが多く、かつ川崎区という名称は中央区的な中枢的機能を持つ地区としてふさわしい名称だったので選んだ。

### 幸 区

応募多数の日幸区は選定基準からはずれ、御幸区では包括的でないで、新区域全体にふさわしい名称として幸区を選んだ。

### 中原区

歴史的かつ包括的な名称として応募多数の中原区を選んだ。

### 高津区

応募多数である橘区も歴史的かつ包括的ではあるが、将来分増区の名称によりふさわしいという意見もあり、歴史的に地域発展の拠点であり、かつ現実に区域を包括している高津を区名に選んだ。

### 宮前区

橘あるいは橘樹（たちばな）の名は古く、市民の間には捨てがたい愛着がある。しかし、橘樹神社の存在や高津区橘出張所管区域のかかわりなども考慮した結果、新区域を包括するによりふさわしい名称として応募数多数を占めていた宮前区を選んだ。



### 多摩区

稲田という名称は歴史上比較的新しく、この区域についてはさらに歴史的で、かつ多摩川と多摩丘陵の景観にふさわしい名称として応募多数の多摩を区名に選んだ。

### 麻生区

応募された中では柿生が多数を占めていたが、鎌倉時代の末期から「麻生郷」の記録があり、上麻生が明治22年に形成された柿生村の中心として発展の拠点となってきたことから、新区域を包括するによりふさわしい名称として麻生区を選んだ。